

大学開放と地域貢献

中央学院大学 土屋ゼミ

中島 武田 倉島 小嶌 永井

目次

- はじめに
- 大学開放について
- 大学が主に行っている取り組み「公開講座」
- 学生ができる地域貢献活動「ボランティア活動」
- 考察・まとめ

はじめに

「地域と大学」という共通論題から、大学が地域の貢献できる方法はどのようなものがあるのかを探った。その結果「公開講座」が地域貢献の方法として最も多いことが明らかになった。この「公開講座」は「大学開放」の歴史からどのように形成され、今現在はどのような取り組みなのかを調査した。また、大学という機関としての取り組みだけでなく、大学に通う学生の主な地域貢献活動であるボランティア活動についても調査した。

大学開放について

「大学開放」…大学が持つ資源（教育、研究、人材、施設、情報）をその大学のある地域住民、企業や自治体に対し、活動や事業を行うこと。社会貢献機能。

1946年 マッカーサーの「アメリカ教育使節団報告書」提出

1947年 学校教育法施行（報告書を参照した記載あり）

1965年 ポール・ラングランの「生涯学習論」の展開

1973年 東北大学「大学教育開放センター」設置

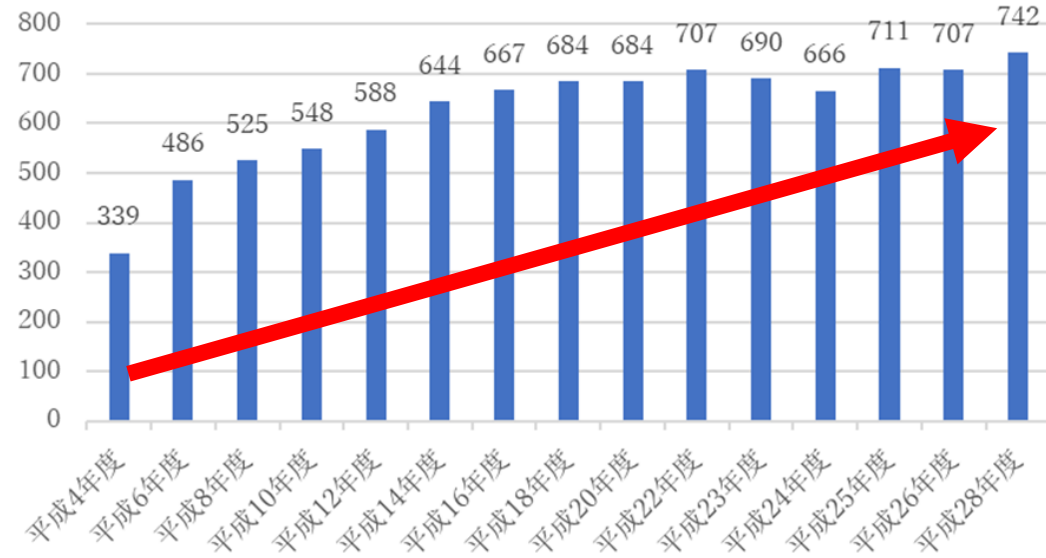
2005年 大学全体の機能として、「社会貢献機能（地域貢献）」が位置付けられる

大学が主に行っている取り組み（公開講座）

- 公開講座の実施
- 社会人入学者の受け入れ
- 学生の地域貢献活動の推進
- 教員を外部での講座講師や助言者、各種委員としてはけんすること
- 施設等を開放し、地域住民の学習拠点とすること

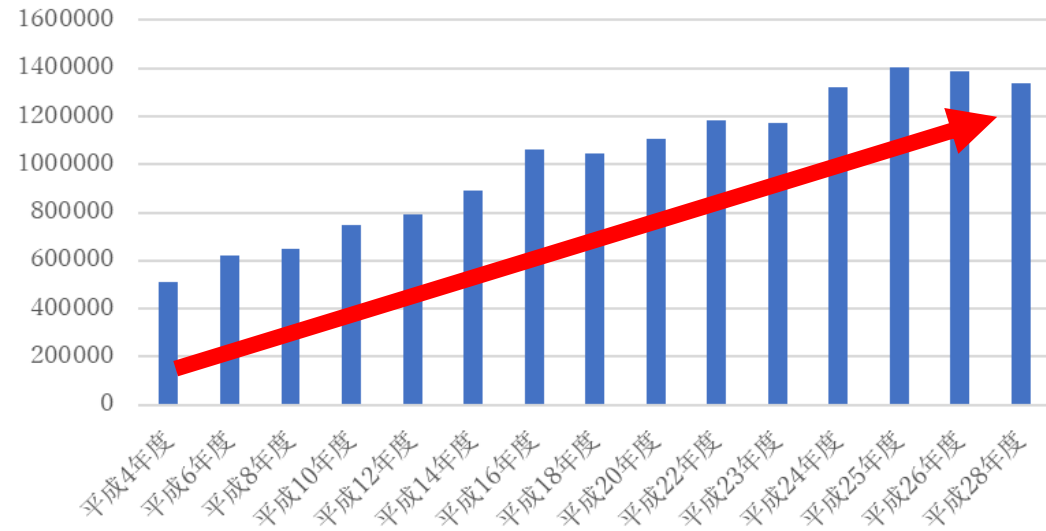
（平成29年 開かれた大学調査に関する研究調査より）

公開講座開設大学数



公開講座を実施する大学数は年々増加傾向にあり、受講者数も同じような傾向にある。「公開講座」は地域貢献の取り組みとして成功していると言える。

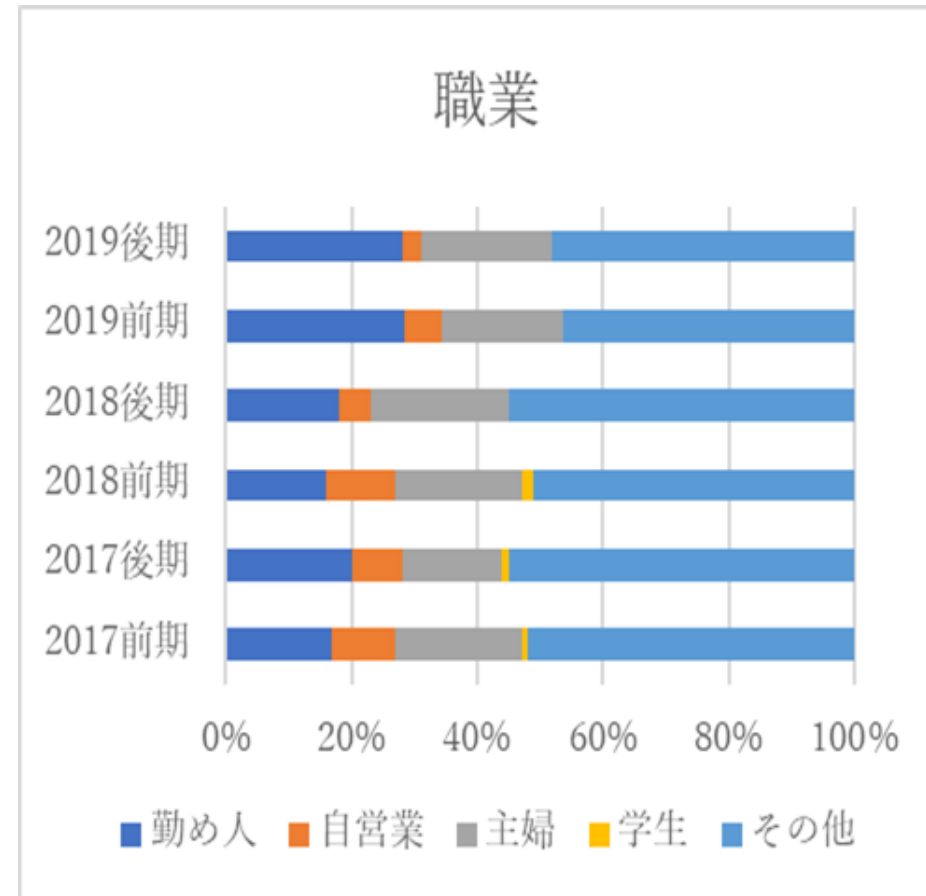
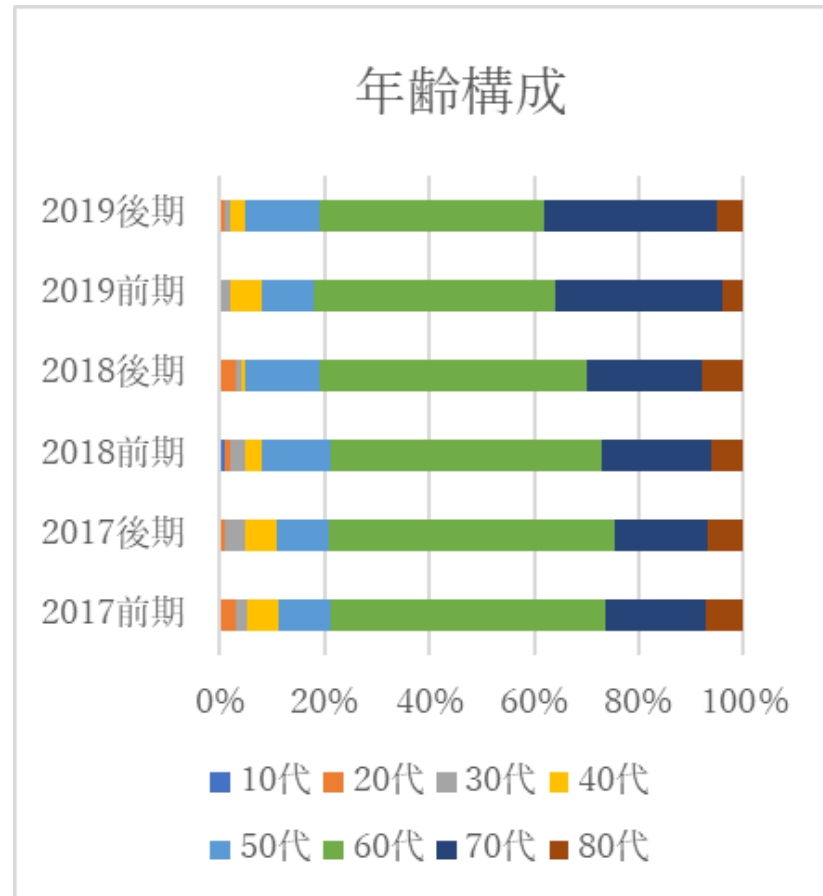
公開講座受講者数



信州大学の公開講座

正規の学生のための通常授業を「市民開放授業」として一般市民にも開放している。大学と地域社会の連携を深めていくことを目的としている。

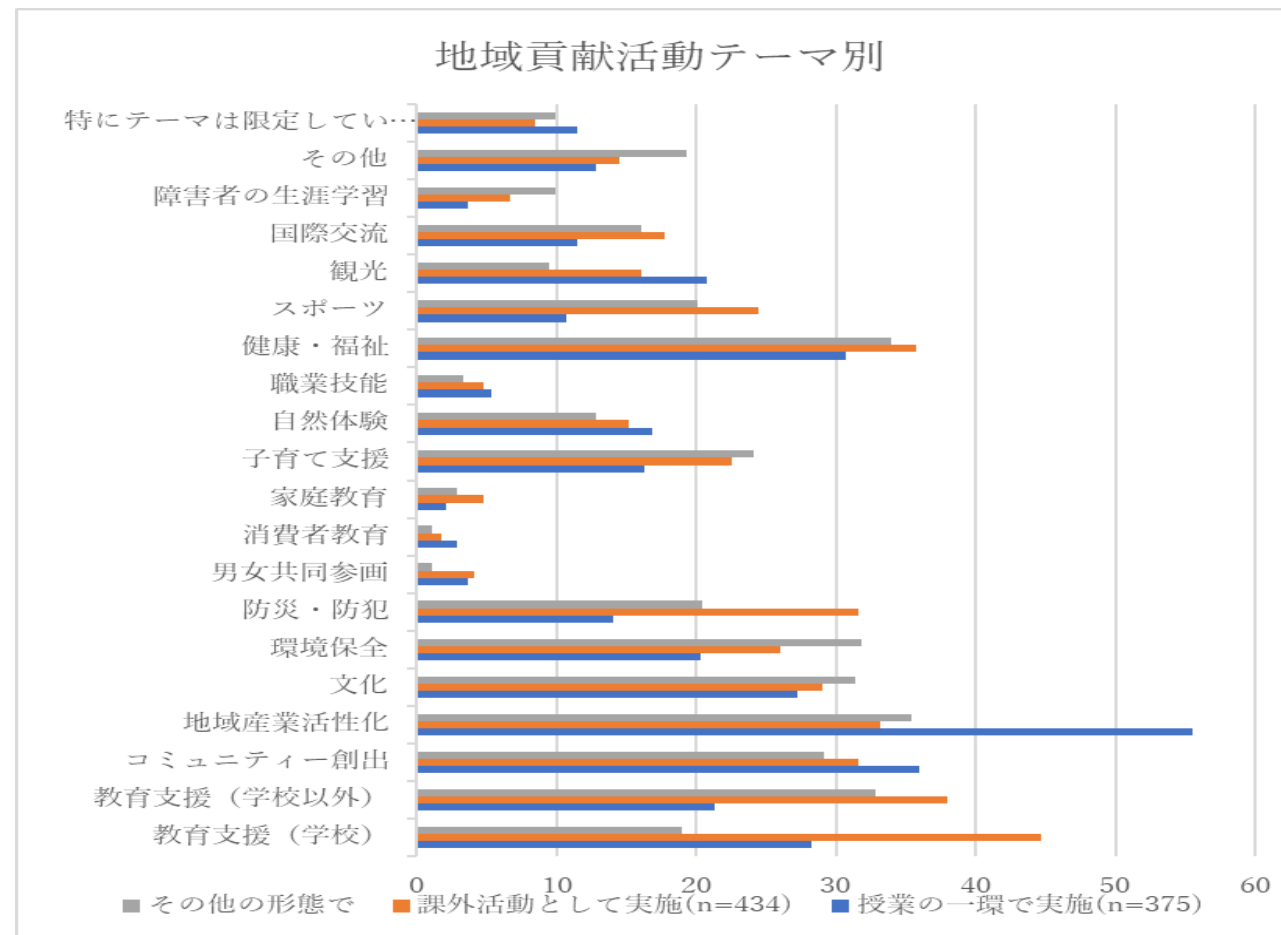
実施状況に関するグラフ



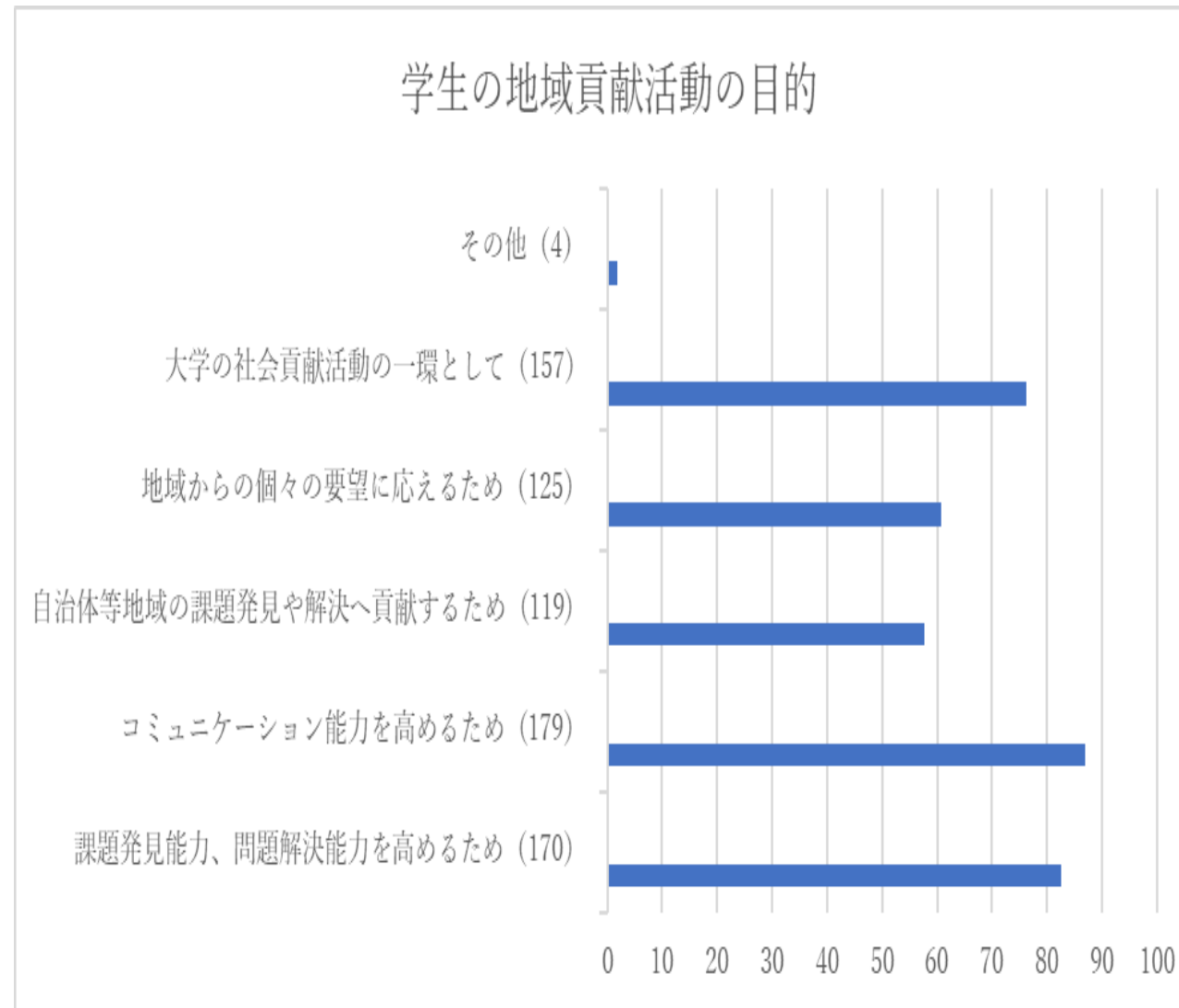
学生ができる地域貢献「ボランティア活動」

(1) 地域貢献活動とその目的

①学生ので地域貢献活動の種類と活動形態別の割合



②学生のボランティア活動への参加目的に関するアンケート調査結果



（２）中央学院大学と信州大学の活動の比較

○中央学院大学のボランティア活動

《単位認定》

現代教養学部：地域ボランティア実践

商学部：総合講座「人間と自然」ボランティア活動体験報告会

【活動内容】

☆並木小学校の子どもと遊ぶ・宿題を見るなどの学習支援補助

☆我孫子駅ロータリーの植物の手入れ

☆けやきプラザ「うなぎちゃん家」で調理、配膳、片付け、接客 など

《単位なし》

- ・手賀沼花火大会クリーンキャンペーン
- ・柏レイソルホームタウンデー
- ・市民のチカラまつり
- ・産業まつり
- ・手賀沼エコマラソン
- ・ジャパンバードフェスティバル
- ・我孫子市新春マラソン
- ・小中学校において学校支援ボランティア など

◎信州大学のボランティア活動

信州大学ボランティアネットワークグループ

VOLNET（ボルネット）

【主な活動】

○ボランティア情報の発信

○自らボランティア活動を行う

○ボランティアの発見、企画

（例）小学生を対象にした「環境教育」

科学の楽しさを伝える「面白科学実験」

【その他の活動】

○令和元年台風第19号の被災地におけるボランティア活動

○海外ボランティア

（３）「健康・福祉」に関するボランティア活動について

◎「健康・福祉」に関するボランティア活動を行った学生の目的

「内容に興味があったから」

「自分の専門性に役立ちそうだったから」

「活動を通して学べるものがあるから」

「視野の拡大」

「人間関係の発展のため」

「やりがいのある活動をしたかったから」

⇒ボランティア活動全体においての学生の参加目的と比べて、専門的な学びや能力を養うために参加する者が多かった。

◎「健康・福祉」に関するボランティア活動の活動例

【ボランティア活動を単位認定としている大学】

○明治学院大学

- ・ボランティアに関する科目を全学部共通科目として設定

○フェリス女学院大学

- ・基礎教養科目として「ボランティア活動」科目を導入

【ボランティア活動を単位認定していない大学】

○桜美林大学

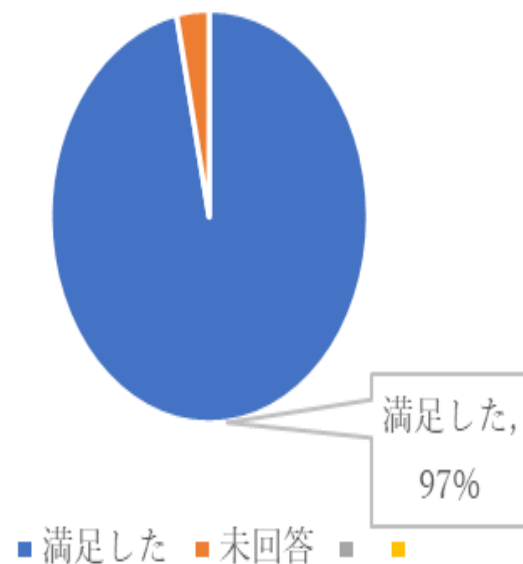
- ・社会福祉ボランティア部

○川崎医療福祉大学

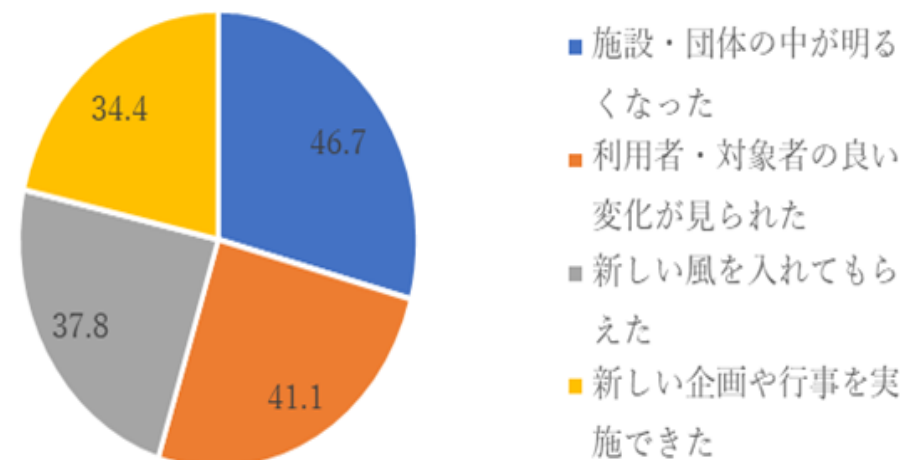
- ・精神保健福祉ボランティアサークル「ゆ・ら・ぎ」
- ・岡山県内の精神保健福祉領域の医療機関や施設で、ボランティアを行っている。

- 依頼側への効果

学生ボランティア満足度



学生ボランティアが活動したことにより良かったことや得られたこと



- 学生側への効果

主体性

実行力

傾聴力

状況把握力

規律性

考察・まとめ

現在の「公開講座」は開設大学数・受講者ともに増加傾向にあるため、今後もさらなる発展に期待できるのではないだろうか。一方で受講者の年齢層のグラフからは、20代から50代の受講者が少ないという事実も明らかになった。より多くの世代が大学の「公開講座」を利用しながら、生涯学習の考え方にもある、すべての人たちに開かれた教育機会へと変化してもらいたい。学生のボランティア活動については調べていく中で、自治体や地域住民が大学に最も期待している取り組みとして挙げられていることもわかった。（『大学開放論』p.80より）。それを踏まえると、「公開講座」を主な取り組みとしている大学と齟齬があるように感じられた。よって、そのような齟齬をなくすために大学とその地域の自治体が意見交換ができる機会を増やす必要性も感じられた。